

《予算関係案件》

議第5号 令和3年度 南和広域医療企業団 病院事業会計補正予算（第2号）について

【補足説明資料】

南和広域医療企業団
令和3年10月27日

次期中期計画の主な取組項目（素案）

～ 南和地域の医療は南和で守る ～

地域医療構想を踏まえて南和地域において企業団が担う役割

■ 南奈良総合医療センター

- 地域の救急を断らない病院・南和保健医療圏における唯一の救急告示病院としての救急医療、小児救急医療、地域の中核病院としての、がん、消化器疾患、糖尿病、外傷・運動器疾患等の専門診療
- 災害時に対応する医療（災害拠点病院）へき地医療への対応（へき地医療拠点病院）在宅への連携を見据えた高齢者医療

■ 吉野病院・五條病院

- 療養への対応、在宅への連携を見据えた高齢者医療

まごころをこめて良質で最適な医療を提供します
～ 笑顔と感謝にあふれる病院をめざす ～



1 企業団3病院の連携による最適な医療の提供

【吉野病院・五條病院の病床再編】

- ① 救急医療
 - ・断らない救急医療の実施、県ドクターヘリの運航に参画
- ② 脳卒中診療
 - ・救急手術、血栓溶解療法（t-P A投与）などに対応
 - ・回復期リハビリテーションの実施
- ③ 急性心筋梗塞
 - ・胸痛搬送ルールに基づく医大附属病院等との連携
 - ・診断・治療、心臓リハビリテーションの実施、再発予防
 - ・循環器サポートチームの強化（拡充）
- ④ がん診療（地域がん診療病院）
 - ・がん診療の充実（内視鏡的・外科的手術及び化学的療法・緩和ケア、リハビリ等）
- ⑤ 糖尿病診療
 - ・糖尿病専門医を中心とした治療
 - ・多職種連携による糖尿病合併症の重症化予防の介入強化
- ⑥ 精神疾患
 - ・外来診療、精神科医療機関との連携・認知症ケアの充実
- ⑦ 周産期医療
 - ・妊産婦健診、新生児健診を実施し、分娩は医大附属病院で対応する周産期医療体制を維持継続
- ⑧ 小児救急医療
 - ・小児二次輪番病院（中南和）に参画、平日19時までの外来診療の実施
- ⑨ 高齢者医療
 - ・フレイル、ロコモ対策の強化、摂食・嚥下療法の強化・充実
- ⑩ 在宅医療
 - ・医療ニーズが高い患者への訪問診療の実施
 - ・訪問看護の充実【南奈良訪問看護st.の機能強化】（医療ニーズへの対応強化、吉野病院・五條病院のみなし訪問看護との一体運用による訪問看護体制の強化）
- ⑪ 予防医療
 - ・健診センターの充実、ワクチン接種の実施、健康啓発の充実
- ⑫ へき地医療（へき地医療拠点病院）
 - ・へき地診療所への支援強化【へき地診療所への専門医・看護師の派遣 等】
- ⑬ 地域医療連携
 - ・紹介患者に対する医療提供、医療機器等の共同利用の促進、地域の医療従事者に対する研修等
 - ・紹介率（又は紹介患者数）、逆紹介率（又は逆紹介患者数）の向上

2 災害医療・感染症対策への積極的な対応

- ① 災害医療
 - ・災害拠点病院、DMAT指定病院（南奈良総合医療センター）
 - ・関係機関との連携を想定した災害医療訓練の実施、業務継続計画の適宜見直し・研修及び訓練の実施
- ② 感染症対策【発熱外来棟の建設】
 - ・第二種感染症指定病院（南奈良総合医療センター）
 - ・新型コロナウイルス等の新興感染症への的確かつ迅速な対応

3 南和地域における地域包括ケアシステムの構築

- ① 在宅医療支援の強化
 - ・ICTの活用、地域の訪問看護ステーションとの共働・補完、へき地診療所への支援、地域の介護施設への支援
- ② 医療・介護連携
- ③ 市町村への支援
 - ・市町村の一次支援（介護予防、健康づくり、地域の見守り）に対するサポート
 - ・福祉の奈良モデル構築に向けた検討【県版ラヒホイタヤの仕組みづくりへの参加】

4 企業団職員、地域の医療・介護職員などの人材育成

- ・研修医、専門医（総合診療医等）の確保・育成
- ・各部門における研修等の充実【発熱外来棟（教育研修棟）の建設】
- ・地域の介護職員・訪問看護師等に研修支援【南奈良訪問看護st.の機能強化】再掲

5 持続可能な安定した経営基盤の確立

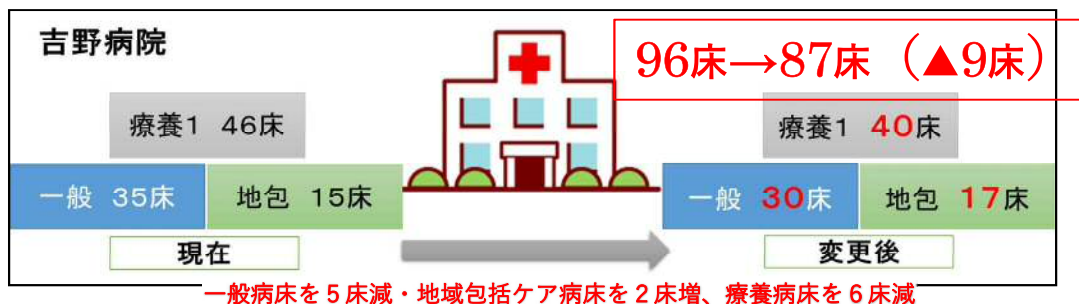
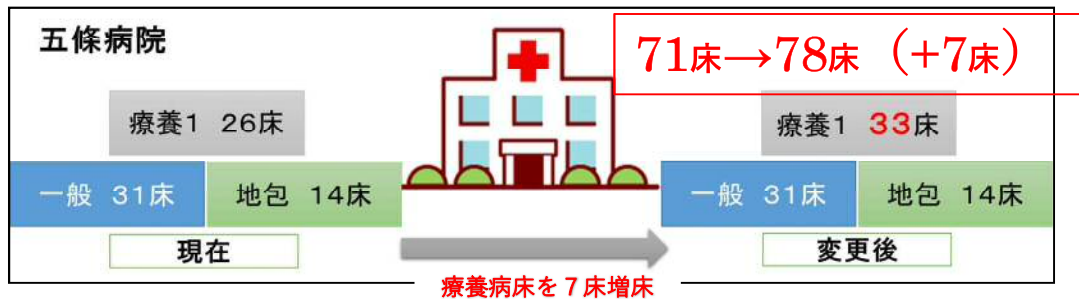
- ① 収入確保
 - <南奈良総合医療センター>
 - ・医療介護連携による入退院支援の強化等
 - ・病床の合理的運用、新入院患者の確保、手術件数の増加
 - <吉野・五條病院>【吉野病院・五條病院の病床再編】再掲
 - ・3病院の一体的かつ効率的な病床運営、地域の医療機関等の連携強化など
 - ・病床稼働率の向上、外来患者の確保
- ② 経費削減
 - ・職員給与費、材料費、経費の適正化
- ③ 合理的かつ計画的な投資【投資計画の策定】

五條病院の活用方針（吉野・五條病院の機能分担）について

基本的な方向性

- 今後の人口推移、年齢構成の変化を見据え、吉野病院・五條病院の病床数・病床機能の見直しが必要
- 吉野病院においては、周辺地域の高齢化率が高いことから地域包括ケア病床のニーズがより高まることを想定
- 五條病院の療養病棟は常に高稼働であり、待機患者も多く、増床が必要
- 看護師配置等、人的コストを勘案し、病床構成を変更することが重要
- 五條病院と吉野病院の病床機能を徐々に見直し、特色ある病院づくりが必要

令和4年4月から運用（案） ※ 企業団全体で399床→397床（▲2床）



令和2年度実績との比較（増減）

単位：百万円

	五條	吉野	計
収益（※1）	45	△19	26
費用（※2）	29	△21	8
収支	16	2	18

※1 収益見込

五條病院（療養） R2の実績稼働率(96.7%)及び実績単価で算出
 吉野病院（一般） R2の1日平均実績患者数(28人)及び実績単価で算出
 稼働率は80.3% → 93.3%
 （療養） R2の実績稼働率(93.5%)及び実績単価で算出
 （地包） R2の実績稼働率(88.6%)及び実績単価で算出

※2 費用見込

五條病院: 看護師3名増、看護補助1名増
 吉野病院: 看護師2名減、看護補助1名減

<吉野病院における削減後の空き病床の活用例>

- ① 転院患者の待機や一時的なりかばりー 運用に使用し、スムーズな転院を可能とする
- ② 見取りの部屋や患者・家族と医師等との十分なインフォームドコンセントの場としての提供及びカンファレンスルームとして利用

今後の課題

- ◇ 五條病院療養病棟を増床しても休床となる12床の今後の運用
- ◇ 五條病院・吉野病院における特色ある病院づくりへの取り組み
- ◇ 病床数見直し後における更なる状況変化（人口動態、患者ニーズ、稼働状況等）への対応

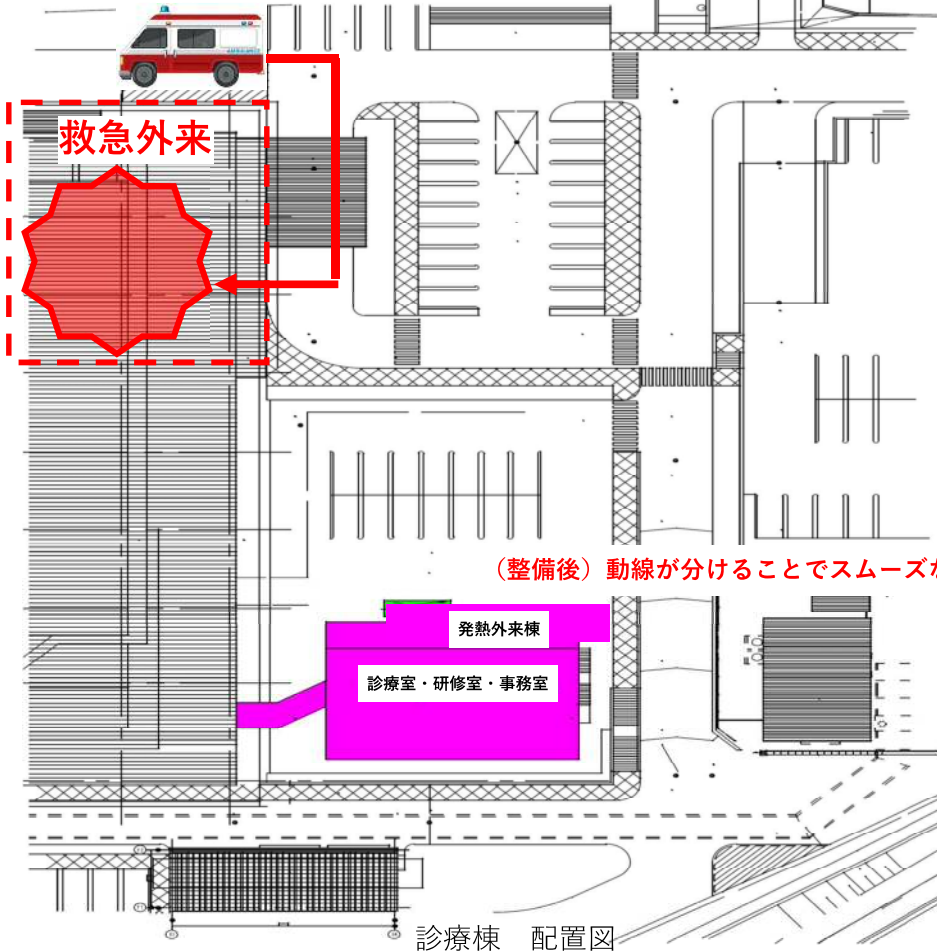
今後も地域の人口推移や高齢化率、患者ニーズ、稼働状況等を注視し、収支バランスを踏まえながら病床数及び病床機能の見直し等継続して検討していく

南和広域医医療企業団・南奈良総合医療センターにおける発熱外来棟の整備

新型コロナウイルス感染症や新たな感染症等への対応として、感染症等患者を診察できる外来を設置するとともに、新たなCT撮影室、研修医室、訪問看護ステーション等を併せて整備する。

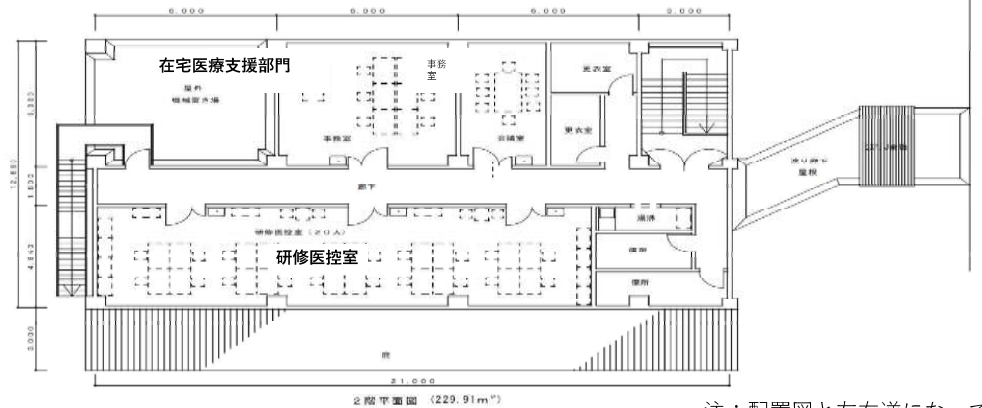
- 建物概要 鉄筋コンクリート造 2階建
延べ面積約520㎡（1階約266㎡、2階約230㎡）
 - ・ 1階 発熱外来（3診察室） CT撮影室（1室）
 - ・ 2階 研修医室 在宅医療支援部門事務室
- 建設費用 設計費15,000千円 建設費300,000千円（精査中）
- 補助対象額 @245.6千円×520㎡=127,712千円（国1/2 県1/2）

（現行）感染症の患者も救急外来で対応している。
動線が分かれておらず感染リスクがあると同時に、円滑な対応が困難

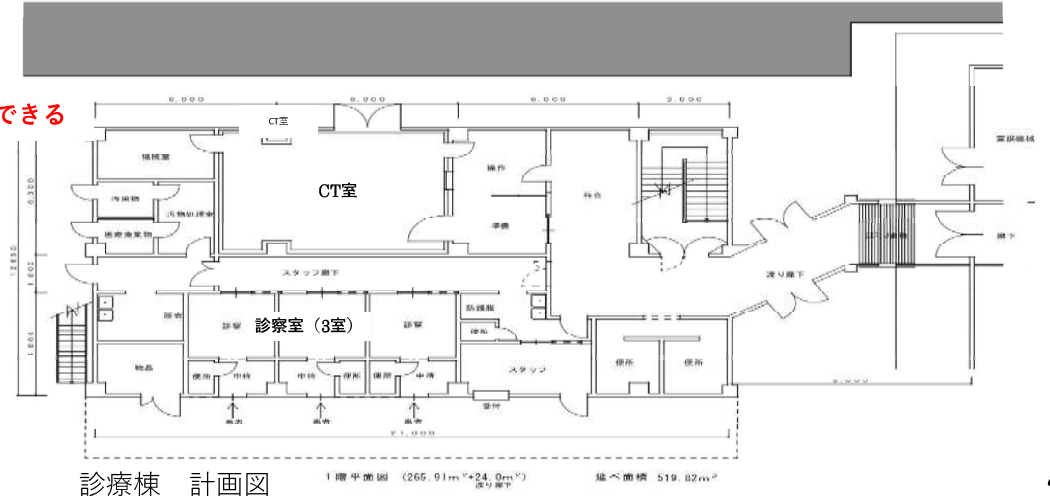


整備を必要とする背景

- 新興感染症への対応 ※ 医療計画の記載事項として追加される
 - ・ 院内感染を防止しつつ、通常医療を確保するため、感染予防の観点から別棟で発熱外来を行うのが適切である
- 健診機能の充実 ※ 平時
 - ・ 南和地域は、健診率が低く、健康寿命・平均余命は県平均より短い状況となっているため、平時には、健診センターとして使用し地域の健診率向上に寄与する
- 在宅医療にかかる医師と訪問看護師の連携強化
 - ・ 訪問診療部門と訪看St.のカンファレンス充実等により医療度の高い患者の在宅復帰を支援し、病床の回転率を向上させる
- 研修医の確保
 - ・ 臨床研修医、専攻医の受け入れを増やすことにより、大学からの指導医を確保できるとともに地域及び県全体の医師確保に資することができる



注；配置図と左右逆になっている



南奈良総合医療センター訪問看護ステーションの機能強化について

- 令和3年1月から南奈良訪問看護ステーションの運営を開始
- 南和地域の在宅療養を支えるとともに、地域の訪問看護を担う人材の育成にも努め、南和地域全体の訪問看護サービスの充実に貢献していく
- さらに、重篤な疾患患者等の医療ニーズの高い患者の療養を支援していくため体制を拡充（機能強化型訪問看護stに移行）

- <今後のスケジュール>
- 居宅介護支援事業所の開設（R4.4～）
 - 医療保険機能強化型2の届出（居宅介護支援件数の実績が要件を充足した後 ※R4中を目標）

参考：令和2年10月22日運営会議資料「～南和モデル～ 「南和地域の在宅医療・訪問看護体制の強化」 から抜粋

【企業団の取組】

- 在宅医療支援センターによる医療ニーズが高い患者への訪問診療
- 南奈良訪問看護ステーションの設置
- 吉野病院、五條病院による訪問診療
- 吉野病院、五條病院のみなし訪問看護と南奈良訪問看護ステーションの一体運用による訪問看護体制の強化

【ICTの活用】

- 地域の訪問看護ステーション、へき地診療所等とのICTを活用した医療・介護情報共有システムの強化

【地域の訪問看護ステーションとの協働・補完】

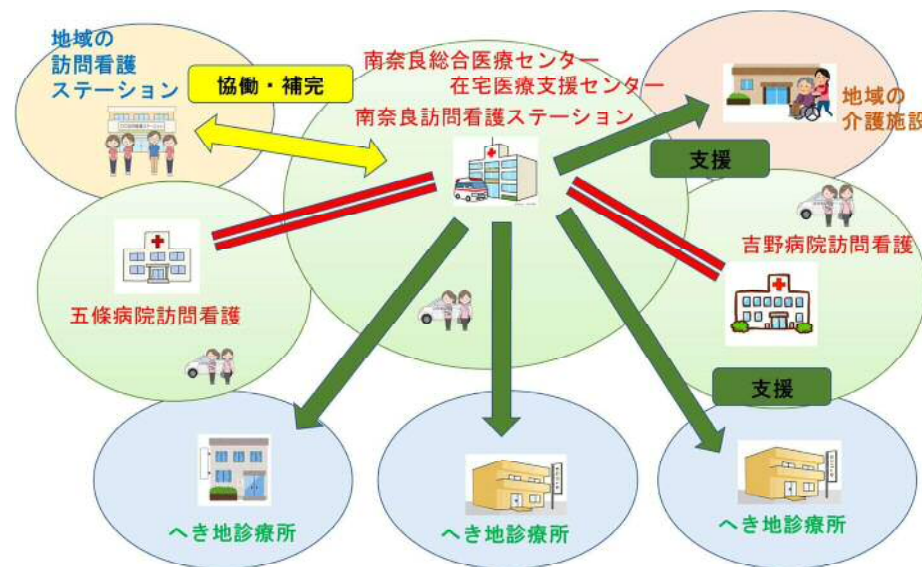
- 地域の訪問看護ステーションとの連携強化
- 医療ニーズが高い患者への対応支援、相談などを通じた協働・補完
- 地域で活躍できる看護師などの教育と研修

【へき地診療所への支援】

- 企業団看護師の派遣による看護師不在時の支援
- 研修等の実施による看護師のスキルアップ支援

【地域の介護施設への支援】

- 医療ニーズが高い利用者への訪問診療等による支援
- 介護職員に対する研修、相談対応など人材育成の支援



◆南奈良訪問看護ステーション

- <基本理念> 「地域で生きる」を支える
- ・南奈良訪問看護ステーションは、南奈良総合医療センターと連携し、信頼と思いやりのある看護ケアを提供し、住み慣れた地域で暮らし続けられるようにその人が望む生活を支援します。
 - ・また、南和地域の訪問看護を担う人材の育成に参画し、南和地域全体の訪問看護の充実に貢献します。
- <設置時期> 令和3年1月（令和4年度に機能強化型訪問看護ステーションへの移行を目標）
- <対象地域> 当面は五條市、吉野町、大淀町、下市町及びその周辺地域
吉野病院、五條病院の訪問看護機能を強化し、対象地域を拡大
へき地診療所の訪問看護との連携により南和地域全体の訪問看護のネットワークの構築を目指す
- <体制> センター長（＝管理者） スタッフ 看護師2名（令和3年度に4名に増員）

【南奈良訪問看護ステーション運営状況】

（単位；人）

一月当たりの運営状況	R2	R3度（4～8月）	対比
訪問看護人数	16.0	40.4	2.5
訪問看護件数	100.9	284.0	2.8
訪問看護新規人数	3.9	8.4	2.2
訪問看護在宅看取人数	1.3	2.8	2.2

※ R2の件数には、4月～12月までの「みなし訪問看護」の件数を含む

へき地診療所への支援強化について

- へき地診療所と連携して住民に最適な医療を提供するとともに、診療所への医師の派遣、巡回診療の実施、医師に対する教育研修を実施していく。さらに、地域の健康課題の解決に資するよう予防や専門診療の充実に取り組む
- 診療所の看護師について、短期間の不在には適宜企業団の看護師を派遣しているところであるが、へき地診療所での看護師確保が困難な場合の、継続的な長期派遣ができる体制の構築に取り組む
- 介護予防・健康づくり等の取組みに対して、医療専門職の派遣

へき地診療所に対する支援の現状（※市町村支援を含む）

■ 「へき地医療支援機構」の役割を担うとともに、へき地医療拠点病院・へき地を支援する病院として医療の提供や診療所の診療を支援

へき地医療支援機構

南奈良総合医療センター（へき地医療拠点病院）

※ へき地診療所への支援の内容

- ・ 代診医の派遣、巡回診療の実施、医師に対する研修
- ・ 専門診療の提供（整形外科医、内視鏡専門医の派遣）



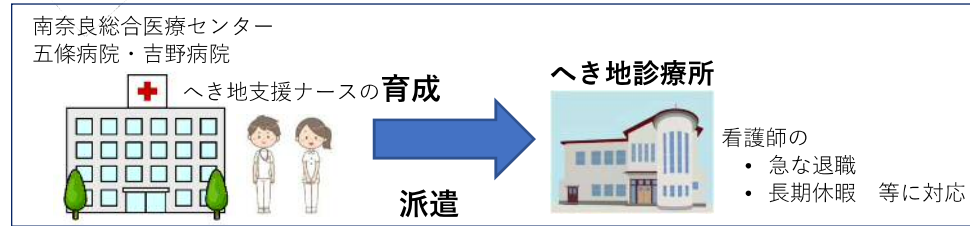
（へき地を支援する病院）

吉野病院

五條病院

■ へき地支援ナースの育成

※ モデル事業として実際にへき地派遣を行いながら、研修プログラム・実務マニュアルを作成しつつ、へき地支援ナースを育成



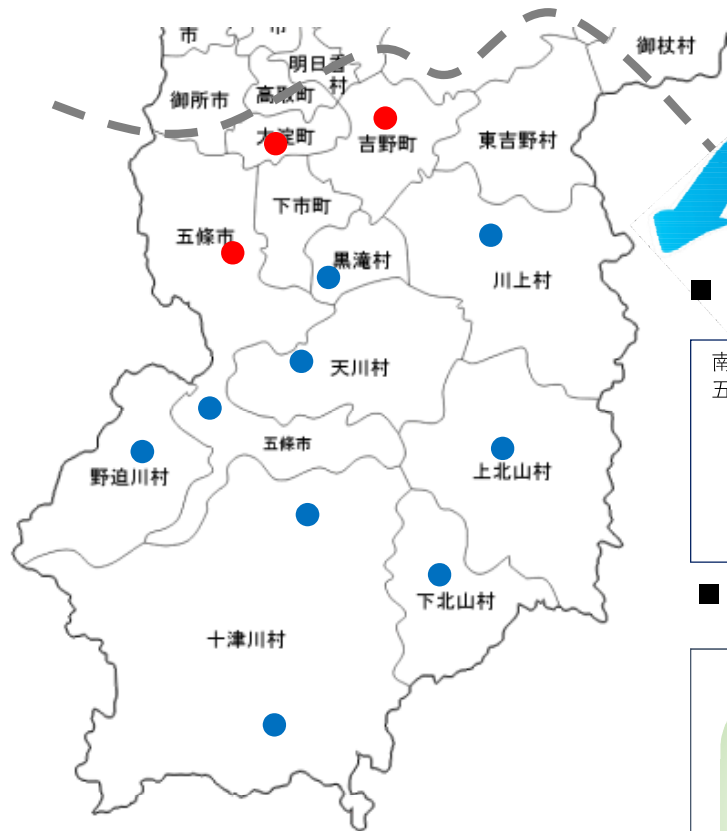
- R3.4～ 五條市大塔診療所（週1回）
- R3.4～7 上北山村診療所（週1回）
- R3.11～ 川上村診療所（週5回）

■ その他の医療専門職の派遣

令和2年10月22日運営会議資料「～南和モデル～『市町村が実施する一次支援に対する医療面でのサポート』」から抜粋



- R2.11～ 黒滝村（不定期）
- R4.4～ 十津川村 ※調整中



● 公立へき地診療所（9カ所）

「南和市町村と県による協議の場」への参画 ～ 奈良県版ラヒホイタヤのしくみづくり ～

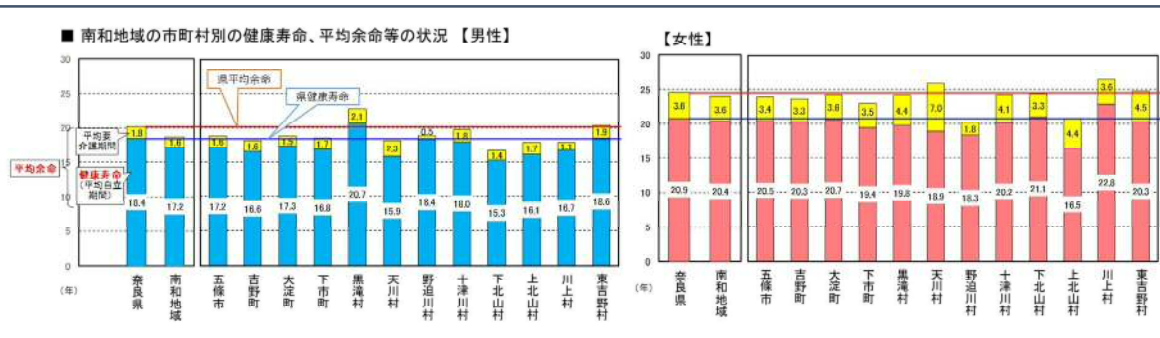
- 南和地域における地域包括ケアシステムにかかる諸課題を議論するため「南和市町村と県による協議の場」が令和2年10月に設置

協議事項	● 医療・介護の地域資源の広域利用 ● 南和に相応しい高齢者支援 ● 医療・介護連携の体制整備 等
開催実績	R2年10月、R3年2月に、「南和地域における健康寿命を延ばすための在宅医療・介護の充実」について意見交換

- 協議の場での意見等を踏まえて医療サービスの充実を図るとともに、地域における課題の解決に向けて、企業団としても積極的に議論に関わっていく

テーマ「南和地域における健康寿命を延ばすための在宅医療・介護の充実」

令和2年10月22日南和市町村と県による協議の場 資料「1 健康寿命に関する南和地域の現状」から抜粋

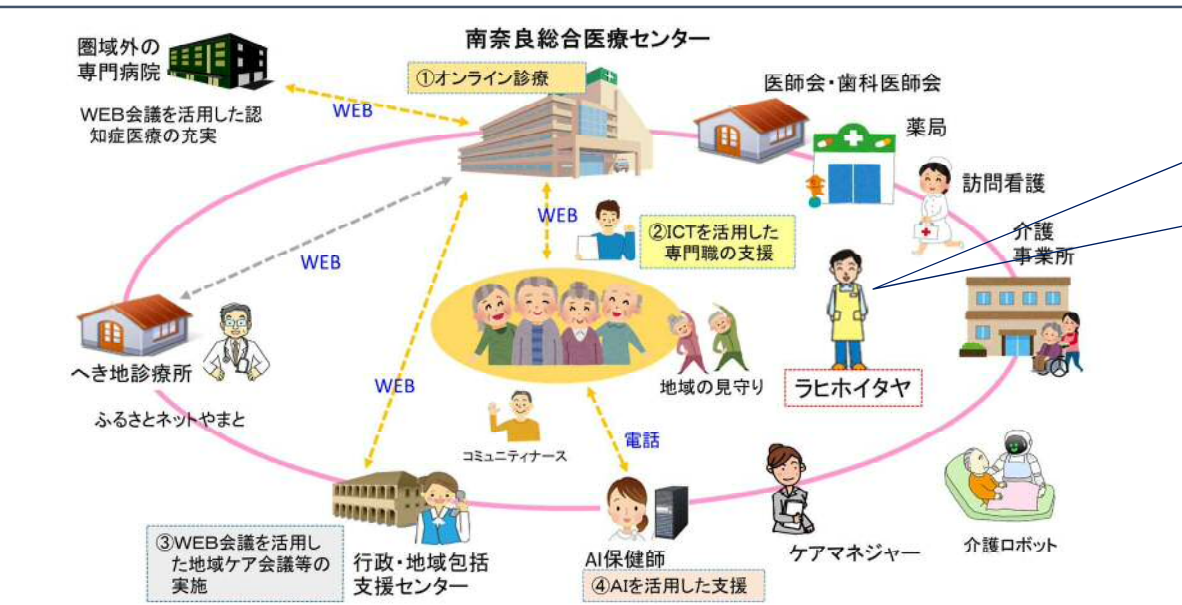


南和地域は、健康寿命、平均余命のいずれにおいても、男性・女性ともに県平均より短い傾向にあります。

「健康寿命を延ばすためには・・・」

「健康づくり」と「介護予防」により、要介護とならず自立した生活ができる期間を伸ばし、これに加えて「適時・適切な受療」により、平均余命そのものを伸ばすこと、が必要です。

同上「3〔取組例〕ICTとラヒホイタヤを活用した南和の在宅医療・介護連携のイメージ」から抜粋



ラヒホイタヤ

※ 保健医療福祉分野でニーズに応じて柔軟な対応ができる多機能職種

(県・12市町村における検討事項等)

- 保育、介護、看護等に必要とされる知識及び養成の方法について検討
- 養成後にラヒホイタヤとして地域で活躍するための場など、活動の仕組みづくりについて検討
- 地域においてデジタル化できない部分を支えることも期待